

経済産業省と厚生労働省が省庁の垣根を超えた国家プロジェクトである「健康経営」と「データヘルス事業」の推進は、日本医師会と国内企業が連携するプロジェクトへシフトする機会となり、これまで異なる分野で日本を支えて来た医療界と経済界が歩み寄り、公益資本主義が主張している「マネーゲームに回っている資金を中長期投資へと導く」点で互いの方向性を一致させ「健康投資」と言うこれまでになかった施策を展開し日本型投資家に新しい風を吹かせ注目を集めています。

2. 公益資本主義 (PIC) とは

公益資本主義(Public Interest Capitalism)とは欧米型の株式資本主義でも、中国型の国家資本主義でもない第三の道を指した原氏が「21 世紀の国富論」において提唱した概念で、企業を社会的存在にとらえ、株主の利益のみを優先するのではなく、社員とその家族・顧客・取引先・地域社会などステークホルダー全体への貢献(公益)を重視する新しい日本型資本主義で、原氏を最高顧問とする一般社団法人公益資本主義推進協議会が 2014 年に設立され日本を中心に世界へ活動の輪を広げています。

公益資本主義は、社会にとって有用な企業を全世界に生み出す流れを起こしていく経済システムを立ち上げようとする活動で、具体的な取り組みは次の通りです。

- ① 三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)
- ② 和をもって貴しとなす
- ③ 吾唯知足((われ、ただ足を知る))

公益資本主義は、古くから日本に根付く3つの考え方を世界に発信するとともに、ビジョンの実現に向けて活動すると明言しています。

まだ、この活動は始まったばかりで成長段階にあり様々な活動を続け全国的な認知を得て行くものと考えています。国内や諸外国にどこまで波紋を広げることができるのか今後注目したいと思います。個人的に現時点の評価としては先日の即位礼正殿の儀で見た虹と重なります。

2. 医療と経済界のコラボ

政府が主導している「コラボヘルス」は、2017年に閣議決定された「未来投資戦略 2017」の施策の一つで、団塊の世代がすべて75歳以上になる「2025年問題」の克服に向けて、技術革新を活用し、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた新しい健康・医療・介護システムの構築にあります。

具体的には、経済産業省が推進している「健康経営」と厚生労働省が推進している「データヘルス事業」を一体化したものが「コラボヘルス」で、従業員とその家族の健康の維持を、健康保険組合や企業の協力のもと効率的に実践し、企業に健康投資を促しながら高騰する医療費に歯止めを掛け健康リスクを縮減して高齢労働者を含めた労働人口の安定を図り、働き方改革を進め「未来型健康投資の経済」を構築する目的があります。

近い将来に団塊世代の多くが「支えられる側に立っているのか」それとも「支える側に立っているのか」成熟した日本社会が大きく変わろうとしている中で、この「コラボヘルス」の成果が日本経済の将来に大きな影響を与えることは間違いありません。

碧 M 企画の基本サービス

産業医や安全衛生委員会と連携して、従業員のヘルスケアサポートを以下のサービス内容で提供します。

1. 職場内巡視
2. 健康、介護、育児相談
3. 安全衛生委員会参加
4. ヘルスケアの情報提



碧 M 企画

代表：渡嘉敷 忠 産業看護職（看護師）

健康経営アドバイザー、ストレスチェック実施者

電話：080-9851-1569

URL：<https://aoi-mk.jimdofree.com/>